



市民と歩む会
新岡知恵 議員

教育委員会について

問 教育委員会は、地方教育行政を根拠として、首長が議会の同意を得て任命した教育長及び4名の教育委員で構成されます。教育長以外の委員は非常勤の公務員であるため、日常的な事務作業は、市役所内にある「教育委員会」があたります。教育行政における重要事項や基本方針を決定する権限は、教育長と4名の教育委員に付与されます。公教育の基本理念実現のためには、教育委員会の機能を高めていくことが求められますが、考えを伺います。

答 様々な知識や経験を持つ教育委員の多様な意向を反映させながら、市民に寄り添った教育行政に取り組みたいと考えています。

問 教育委員会が本来の機能を発揮するには、教育委員が事務局と対等に協議することが重要ですが、教育の専門家と言うのは実際のところ難しいと考えます。前提として持つべき知識や法律については、事前に説明し理解してもらうことが必要ではないでしょうか。

答 年5回程程度の研修のほか、学校訪問や学校課題研究発表会への案内などもしています。事務局で得ている情報等も、今後丁寧に教育委員会へ提供していきたいと考えています。

問 小中一貫教育については、外部検討会議での検討結果に、教育委員会が最終的に承認を与えますが、その議論内容を理解しなければ可否を判断できません。外部検討会議へ参加するなど、積極的に教育委員が関わる取組が必要ではないでしょうか。

答 外部検討会議は、広く開かれ様々な立場からの意見を聴取するという趣旨から、あえて外部の方々にお願いをし、教育委員には事務局を通じて、議論の状況が報告されています。

問 市民に小中一貫教育を理解してもらうことが重要。保護者説明会を実施するべきではないでしょうか。

答 教育委員会から理解啓発にも努めるよう指示があり、今後作成する保護者、地域住民向けのリーフレットの活用とも併せながら、検討しています。特に、中学校区の児童生徒数の推移など、状況が異なることを的確に踏まえた対応が必要になると考えています。

◆その他の質問項目
私たちのつどいについて、多文化共生について



市民と歩む会
柏野大介 議員

ゼロカーボンシティの実現について

問 恵庭市ではゼロカーボンシティを宣言し、温室効果ガス削減に向けた取組を進めています。区域内における進捗、直近の実績とその要因、今後に向けての課題について伺います。

答 「ゼロカーボンロードマップ」に基づき施策展開しており、現在、事業者向けの取組として、温室効果ガス排出量の見える化事業を推進しているところです。

問 直近のデータでは、どのくらい温室効果ガスの削減が進んだのか。

答 ロードマップ中では、目標数値達成するような見込みとなっており、目標数値をクリアいたしますので、毎年3.4%二酸化炭素が減るような形で推移している。

問 直近のデータ2022年では、2013年と比べて27.6%減らさなければいけないところ、現状は削減率20%にとどまるのでは。わかりやすい形での進捗報告が必要では。

答 環境省から公表される二酸化炭素排出量のデータ、特に自治体カルテについては、今後、委員会では報告はしていきたい。

問 ロードマップでは、施策の検証見直しに向けた検討を行う時期とされている。どのような見直しを検討されているのか。



ゼロカーボン実現のイメージ

答 これまでの取組は二酸化炭素排出量の実態把握に重点を置いていたが、今後は削減に向けた取組も必要でないかと考えている。

問 今後はより小さな業務部門、運輸部門に向けた、具体的な削減の取組が必要ですが、基金を活用し、事業者の負担を大幅に減らすような形でモデル的な補助事業、脱炭素に向けた補助事業というものが必要ではないか。

答 産学官官作業部会の中で検討していきたい。

◆その他の質問項目
市長の政治姿勢について、会計年度任用職員の処遇改善について、持続可能な除雪体制について



民主・春風の会
瀬谷敏明 議員

生成AIなどのデジタル活用について

問 本市における生成AIの導入及び利活用の現状について伺います。

答 本市では令和5年度から生成AIの試行運用を開始し、これまでに4種類のサービスを利用し、比較検討を続けています。

現在も試行運用を継続しているところであり、様々な部署で議事録作成支援や文書校正、要約等に活用しています。

問 生成AIの利活用にあたっての課題を伺います。

答 試行運用で課題を明らかにしたいと考えており、これまでにセキュリティ上の課題は生じていませんが、効率的な運用方法の確立や費用対効果の検証、ガイドラインの作成などの検討が必要と考えています。

問 今後どのような業務に生成AIを活用できる考えなのか伺います。

答 具体的な対象業務の選定については、各部署の利用実績や効果検証の結果を踏まえて整理していくという考えで、文書作成、校正、要約、

議事録作成支援、あるいは住民向け案内やよくある質問であるFAQの草案作成、調査、情報整理といった分野から段階的に活用を進めることが効果的だと考えています。

問 生成AIを積極的に利活用することによって生み出される効果を伺います。

答 生成AIは職員の判断と最終確認を前提とした業務支援の補助ツールであり、一般に言われる導入効果としましては、文書作成校正要約や議事録作成支援等における作業時間の短縮、表記や構成の標準化による品質の安定、調査・情報整理やFAQ草案作成の迅速化による情報発信のスピードの向上、さらには自由記述の分類など前処理支援による分析業務の高度化といったことが挙げられます。

問 生成AIを導入利活用にあたって、生成AI利用に関する指針や職員向けのマニュアルなどのルールづくりを策定する予定はあるのか伺います。

答 出力内容の検証、生成AIの命令文の作成方法、並びに個人情報取り扱いを含むセキュリティ要件を主要項目として盛り込んだ生成AI利用ガイドラインといったものを本年度末までに策定する予定です。

◆その他の質問項目
在宅勤務について、フレックス制度について、こども誰でも通園制度について、保育認定の現状について



自由民主党議員団
藤原会
としのり
宮 利徳 議員

新市街地整備の進捗と今後の展望について

問 新市街地の整備について、戸磯地区、上山口地区、西島松地区それぞれの進捗状況と今後の展望について伺います。

答 戸磯地区については、サッポロビール庭園駅を核としたエリアの段階的な開発の検討に必要な調査として、土地所有者の把握及び土地所有者の意向確認のほか、半導体関連企業の立地動向調査に、取り組んでいます。

今後は、当面の立地需要面積を整理するとともに、サッポロビール庭園駅周辺の土地利用を検討してまいります。

上山口地区については、商業系の土地需要への対応を見込んでいますが、具体的な需要が明らかになった段階で、その実現に適した手法について検討することになっています。

西島松地区につきましては、一体的な市街地開発の検討に必要な調査として、補償調査などを実施しています。今後は、一体的な土地の取得に向けた地権者協議を進めてまいります。

問 西島松地区の土地取得について、昨年、土地開発基金を設置して10億円の基金を積み立てましたが、この基金で対応するのは、土地取得費だけなのか、あるいは今検討している補償費も含まれるのか伺います。

答 土地開発基金で対応しますのは、土地取得費のみで、補償費は含んでいません。

問 土地取得費については取得する土地の単価と面積はそれぞれどのように決定しているのか伺います。

答 土地の単価については、これまで市が土地の売買を行う際には、過去の取引実績や、不動産鑑定による客観的な評価などに基づいて価格を決定しており、今回の新市街地整備においても、これを基本とし決定したいと考えています。

取得する土地の面積については、現在行っている補償調査や、今後の地権者協議などの結果を踏まえ、地権者の皆様に開発についての同意をいただいた上で、事業の範囲や面積を決定してまいります。

◆その他の質問項目

原田市長の5期目に当たったの抱負について、メタバースを活用した不登校児童生徒への支援について



自由民主党議員団
藤原会
よしなか たかゆき
吉永孝之 議員

駅利用者と市民全体の移動困難を踏まえた乗合タクシー制度の導入の検討について

問 恵庭市内ではタクシー不足が深刻化しており、駅へのアクセスや歓楽街からの帰宅手段が確保できない、いわゆる「タクシー難民」の声が多く寄せられています。現状と課題について伺います。

答 市では具体的な調査はしていませんが、市内の飲食店や商業団体などから、特に忘年会、新年会シーズンの金曜・土曜の夜にタクシーがつかまりにくいとお聞きしており、市内3駅においても同様の状況であると考えています。

問 移動手段の確保は市民の生活に直結する重要な課題です。悪天候時や夜間は電話が繋がらない状況が発生し、駅からの帰宅や通院、買い物、日常生活に支障をきたしています。市の認識を伺います。

答 タクシー会社によると大雨や大雪などの悪天候時や曜日によっては、夜間につながりにくい状況とのことで、タクシーアプリによる受付が行われています。ただ、アプリを利用していない利用者には不便が生じていると認識をしています。

問 乗り合いタクシーは1台のタクシーで複数乗れます。JR発着の乗り合いタクシーを補助制度の活用、民間事業者との協力によって、実証実験などの制度を構築する可能性があるのかどうか伺います。

答 今後、地域の状況やタクシー事業者、恵庭市地域公共交通活性化協議会などの意見を踏まえ、試験的に実施することになった場合は、補助制度等の活用も視野に入れないがタクシー事業者等と実証運行を行う可能性はあるものの、実証運行を行う際には、運行方法、運行地域、運行日時、料金、平等性など様々な視点での検討が必要であると認識しています。



乗合タクシー

◆その他の質問項目

防災資材の安全かつ効果的な保管体制の整備について、土砂災害に備えた関係機関との連携体制について、今後のエゾシカの対策計画について、外国人住民への公共交通案内の多言語対応とエコバス乗継制度の周知強化について



自由民主党議員団
藤原会
みき まこ
三上まどか 議員

第3期恵庭市人材確保計画の進捗状況について

問 合同企業説明会について伺います。

答 本年度は2日間で開催し延べ58社が参加し132名に会場していただきました。

参加企業からは、雇用条件や業務内容などを「来場者に直接説明することができた」と高評価をいただき、今後は採用状況について確認を行い、年度末を目標に結果を取りまとめたいと考えています。

問 外国人人材採用支援セミナーについて伺います。

答 市内の外国人採用を検討又は関心のある企業を対象に、採用に関する基礎知識や留意点、各種手続き方法、助成金などを紹介する内容で、市内の企業12社から14名に参加いただき、本年度初めて実施しました。「もう少し長い時間でもよかった」「実際に雇用されている外国人労働者の声が聞きたい」といった意見をいただきました。

問 女性デジタル人材育成事業について伺います。

答 女性の長期的な経済的自立を目指すため、デジタルスキルを身につけた人材を育成し、就労につなげることを目的として本年度から実施し、全10回の講座を開催、アンケートでは、殆どの参加者から「講座内容に満足した」との意見をいただきました。今後、参加された方に、その後の就職状況について調査を行い、年度末を目標に結果を取りまとめたいと考えています。

◆その他の質問項目

恵庭駅前エリアマネジメントについて

問 従業員の資格取得支援事業については、課題を整理しているとのことでしたが、現在市内のタクシーやバス、トラックのドライバーが不足しているという声があります。まずは試行として、ドライバー不足に対応する支援を実施し、制度の課題を、整理する方法がとれないか所見を伺います。

答 現在物価高騰や人材不足により、市内の中小企業等の人材育成の支援や雇用の安定化、企業の経営基盤の強化を必要とする状況の中、市内の中小企業等の従業員の資格取得について支援を行うことは必要であると認識をしています。喫緊の課題であるドライバー不足に対応した支援についても、市としては何らかの施策を講じる必要があると考えていることから、令和8年度から、モデル事業として、実施する方向で検討したいと考えています。



河川区域の維持・管理について

問 恵庭市内の清らかな川の流れば、市民生活に潤いと安らぎをあたえてくれます。河川緑地の定義・目的及び国または道に整備された施設について伺います。

答 河川緑地は、河川区域内にある緑地であり、恵庭市が、国や北海道から占用許可を受け、親水性に溢れた水と緑の癒しの空間の創出を目的とした噴水や水路のほか、遊具やあずまやなどの施設を整備しています。

国や北海道では、川の流れの調整や洪水などによる災害防止のため、堤防や護岸などの河川管理施設の整備を行っているほか、花の拠点かわまちゾーンなど河川空間を活かした賑わい創出のため、遊歩道や親水空間などの整備も行っていきます。

問 漁川河川緑地には、噴水、遊具などがありますが、今年は噴水の水が出なかったり、遊具は使用禁止となっており、地域の人々や子どもたちが大変がっかりしていました。その周知はどのようにされていたのか伺います。

答 老朽化等によって破損した施設は、補修または使用禁止措置を行い、事故等の未然防止に努めています。市民周知は、現在、公園台帳や公園カルテなどを活用して、ウェブ上に生成AIを活用した公園コンシェルジュ機能をつくり、公園利用者が24時間365日、公園に関する問い合わせが可能となる取組を進めています。



冬の恵庭岳と漁川

問 公園緑地の樹木や落ち葉などの維持管理の現状について伺います。

答 令和6年度から都市公園公共緑地等指定管理において、住区基幹公園の全ての公園樹に対しナンバリングを行ってまいります。

現在、その樹種や総数の把握をしながら維持管理を行っています。

落ち葉などの維持管理では、落葉時期に合わせて、幹線道路を中心に路面清掃を行い、落ち葉の回収に努めており、ボランティア清掃にご協力いただける市民や団体にボランティア袋などを配布し、清掃や集積を実施していただいています。

◆その他の質問項目 市道の維持・管理について



SNSを活用した情報発信について

問 公式YouTubeチャンネルの現状と課題について伺います。

答 市政に関する情報について、テキストや画像などでは伝えにくい多様な行政の取組などを、市民に対し動画を用いて「わかりやすく、かつ効率的」に伝えることを目的として開設しています。認知度向上や訪問意欲の喚起を図るためのシティブロモーションなど、多様な情報の提供を図ってきておりますが、動画制作には、企画力に加え、撮影・編集など高度なスキルが求められ、公的機関が発信する情報として、公平性や正確性を確保するチェック体制、これらに加えて情報公開のあり方に関する方針などの整理についても、取り組むべき課題であると認識しています。

問 現在まで公開された動画について、どのような手法で制作され、どのような効果があったのか伺います。

答 各所管において、動画の企画力、撮影、編集技術などの必要なスキルが身に付いている職員が制作する場合と、そうした職員がいないといっ

た場合については、委託事業として制作している状況にあります。

成果指標である再生回数については、一定程度あることから、各所管が動画により公開した効果はあったものと考えています。



恵庭市公式 YouTube

問 時代が変わり、若い世代を中心にSNSでの情報が求められるほか、年配の方も利用される割合が多くなってきた。

更にその需要は加速していくものと感じており、YouTubeを活用し出前講座などを動画で伝えるなど、積極的に気軽に活用していただきたいと思っています。

現状では、正確で的確な動画配信の体制がまだ整っていないという点なので、今後、体制を整えたいと願っており、改めて動画配信のあり方について伺います。

答 動画配信に係る様々な課題を踏まえながら取組を進めていく必要があると認識をしています。

◆その他の質問項目 はなたびタクシー利用券事業について



島松駅周辺の駐車場について

問 市営駐車場は現在、新複合施設建設工事の影響で駐車台数が少なくなっています。完成後も工事開始前より若干少ないようです。

駐車場の不足は、迷惑駐車を生じ、事故やトラブルの元にもなりかねません。

市民が気軽に立ち寄り、安心してこの地域の様々な施設を利用するためにも駐車場の適切な台数を確保することは喫緊の課題であると思います。市民のための駐車場等について、考えを伺います。

答 島松駅横駐車場は、島松複合施設の建設工事に伴い、駐車台数が109台から53台に減少しており、工事完了後も一部が複合施設の敷地として活用されることから、82台になる予定です。

駐車台数の減少に伴い、利用者の利便性の低下を最小限にするよう指定管理者と検討を行っており、近隣に月極駐車場を14台分整備し、利用を開始しているところです。

現在、更なる駐車場の拡大に向け、指定管理者と協議しています。



島松複合施設建設現場

問 定期券の再販売の予定はあるのでしょうか。

答 島松複合施設工事完了予定の令和9年春頃より販売を再開する予定で、指定管理者と協議をしています。

問 島松駅周辺の民間事業者などに協力をしていただき、例えば土日など、夢創館や新しくできる複合施設でイベントが開かれるときや近隣駅のイベントなどが重なったりするときに、駐車場をお借りするような方法は考えておられるのか、所見を伺います。

答 現在、指定管理者によって月極駐車場を整備していますが、ほかの島松駅周辺の民間事業者や個人が所有する駐車場や空き地についても交渉や調整を継続しています。

賃貸料や駅からの距離などが、交渉がまとまった場合には駐車場として利用してまいりたいと考えています。



野生鳥獣の被害とその対策について

問 鹿やアライグマによる被害や盤居地区のみならず市街地に近い場所での熊の痕跡が確認されるなど、市民生活に及ぼす影響が身近に迫ってきています。被害状況把握について伺います。

答 アライグマの捕獲や処分に関しては業者に委託しており、当該駆除業者からの報告により件数などを把握するとともに、その他の鹿やキツネなどの野生鳥獣に関しては、市民からの通報などにより状況を把握しています。

問 恵庭市が保有するわなの状況について伺います。

答 アライグマのわなの台数は36台で委託事業者が、貸出しを希望する方の自家農園などにわなを設置し、捕らえたアライグマの回収も行っています。

問 ガバメントハンターの必要性について伺います。

答 ガバメントハンターは、自治体職員で狩猟免許を持ち、野生鳥獣の管理や捕獲を専門的に行う人材で、高齢化などにより猟友会のハンターが不足し、被害対策が困難な

現状にあつて、ヒグマ対策の有効な手段の一つだと認識しています。

問 夜間銃猟も実施できるプロのハンターを、ガバメントハンターとして採用する必要があると考えますが、所見を伺います。

答 採用した場合であつても、猟友会の協力が必要であり委託契約の継続は必須であると考えられ、ヒグマ対策を行うに当たり、どのような制度を活用しどのような体制を構築することが、効果的なのか検討する必要があると考えています。



市街地を疾走する牡鹿

問 肝心のわながない、足りないのであれば、ヒグマ用の箱わなを増やすことも検討しなければならぬと思います。考えを伺います。

答 今年度、本市でヒグマの目撃情報が多数寄せられて、盤居パークゴルフ場付近でヒグマが確認され、1頭捕獲しています。

箱わなは受注生産で高額であり、保管場所の確保も必要となり課題もありますが、複数所有することが望ましいと考えています。

◆その他の質問項目

行政に対する市民の声の集めかたについて、島松のまちづくりについて



文化創造都市の構築について

問 第6期恵庭市総合計画の策定を進める中で、これからの恵庭の未来像として「文化創造都市」との位置づけがなされています。今後、「文化創造都市」の構築を、どの様に進めるのか伺います。

答 本市のまちづくりは、これまで多くの市民の方々が地域に根差した様々な取組を主体的に進めるとともに、まち全体に広げてきたものと考えています。

こうした長年の活動を通して、市民たちが育んできた「花のまち」や「読書のまち」などの取組が、本市の文化となり、内外にそのイメージが定着したことは、貴重な財産として、今後のまちづくりへ継承されていくべきものと考えています。

令和8年度から始まる「第6期恵庭市総合計画」策定にあたり、多くの市民参加のもと、本市の豊かな自然や歴史、これまで培ってきた特色ある文化をはじめ、近年の本市を取り巻く状況の変化を見据え、スポーツを通じたまちの振興や芸術文化など、将来のまちの姿について、数多くの

の熱意あるご意見が出されたところです。

本市の今後のまちづくりは、本市がもつ豊かな自然や歴史のほか、これまで築きあげてきた有形・無形の文化をまちづくりの核として生かしつつ、まちづくりの重要な資源として再認識するとともに、北海道文教大学地域創造センターが展開しています「文化創造都市プロジェクト」などの研究を参考にしながら取り組んでまいります。



第6期恵庭市総合計画

また、スポーツを通じて人が集い、夢や希望をもち熱意や感動を分かち合うことによる連帯感の創出をはじめ、感性や想像力を刺激する文化に触れる空間の充実など、世代を超えた市民交流の機会が生み出されるといった、新たなまちの資源となり得る取組を積極的に進めて、市民一人ひとりが、自分のライフスタイルを実感できる快適で住みやすいまちと感じられる「文化創造都市えにわ」の実現を目指してまいります。

◆その他の質問項目

「文化・芸術振興条例」の制定について、特定健康診査受診率向上対策事業について、高齢者健康増進助成券事業について



ごみ処理にかかる現状と課題について

問 恵庭市一般廃棄物処理基本計画では、ごみ発生抑制・資源化の取組を進めています。資源化の進捗状況や課題を伺います。

答 本市では、全道・全国の平均値と比較し、1人1日あたり家庭ごみの排出量は少なく、リサイクル率は上回っています。更なるごみの減量・資源化を推進するため、市民・事業者の廃棄物処理に対する意識醸成や行動変容を促すことが重要であるほか、リサイクルセンターの老朽化対策や整備などが課題です。

問 紙おむつリサイクルの考え方について伺います。

答 一般廃棄物として適正に焼却処理できている現状です。リサイクルを行う場合、施設の整備や処理ルート確保のほか、新たな分別負担の発生や収集経費の増加など課題も多く、本市においては、現状、紙おむつリサイクルは困難であり、現在の処理体制を継続することが適切と考えています。

災害防に関する本市の現状と課題を伺います。

答 本市でも、ごみ処理施設や収集運搬車で危険物混入が原因と思われる火災が発生しており、本年度も5月にごみ処理場で破砕作業中に堆積物から白煙が発生し10月には焼却施設のビッド内でごみの一部が発火、施設に配備されている放水銃で消火した事案などが発生しています。スプレー缶やカセットボンベなどは中身を使い切った上で「キケンごみ」とし、リチウムイオン電池などは「資源物」として分別区分し、「燃やせるごみ」に「燃やせないごみ」の袋に混入しないよう周知・啓発するなど火災発生リスクの低減に努めていますが、分別が徹底されていないことが課題です。

問 火災等事故防止に向け、焼却施設や収集運搬車両火災事故が起らないための対策を伺います。

答 各施設とも建物には火災報知器や消火器等の消防・消防設備が配置されています。焼却施設では、放水銃、盤居のごみ処分場では、防火水槽を設置しているほか、監視カメラを設置し火災の発生を監視しています。パッカー車で火が出た場合は、消火器を備えており、火を消せる体制をとっています。

◆その他の質問項目

恵庭市住生活基本計画について

特集！ 恵庭市議会の取り組み

中学生と考えるまちづくり

11月17日、柏陽中学校3年生が総合的な学習の時間で取り組む「100万人プロジェクト」に恵庭市議会へお声がかかり、参加させていただきました。

「100万人プロジェクト」とは、授業の一環として、恵庭市にとって100万人が関わるまちになるためには、どうしたらよいかを生徒たちが考え、提案を通してふるさとの関心を持ち、自治や社会参画について学ぶことを目的にしているそうです。

1時間の授業の中で、クラスごとに数名の生徒が「恵庭市をよりよくするための提案」をスライドにまとめたものを発表し、その提案に対して、私たち議員が議員の視点からアドバイスをさせていただきました。

今回は学校からのお声掛けで実施しましたが、中学生らしい率直な提案ばかりで、恵庭市議会としても、中学生と一緒にまちづくりについて考える貴重な経験となりました。

○提案の目的

- ・恵庭市の可能性を広げ、更に魅力を増やす
- ・恵庭市をより便利で明るいまちにする

⇒「えにわ」を
100万人以上が関わるまちに！

恵庭と札幌の良さの比較

恵庭市の良いところ	札幌市の良いところ
①自然が豊か	①商業施設が多い
②アクセスが良い	②都市が発達している
③子育て支援の充実	③教育機関の充実

恵庭の課題点

恵庭市最大の課題点は急激な高齢化

恵庭市の人口は約70,000人
の高齢者の人口は約20,000人

そのうち
人口の28%ほどが高齢者で、4人に一人

このあとも高齢化は進むと予想されている



<参加した議員の感想>

- 100万人プロジェクトは恵庭のまちをどのように発展させ、また活性化させるのかを考えて発表する大変に良い企画と感じました。
- 生徒たちからの提案を聞き、何とか実現出来る方法がないかといった気持ちになりました。
- 提案の中で、市としてどのようなことが実現でき、どの様なことが難しいのかなど短時間で伝えるのは難しく、今後機会があれば、事前に生徒達とワークショップなどで情報共有しながら、恵庭のまちづくりについて一緒に考えることで、生徒たちの学びも深まり更に良い提案となるのではないかと感じました。
- 今後、主権者教育の一つとして議会としても取り組んでいけると良いのではと感じました。



議場から始まる恵庭のまちづくり

恵庭市議会では、議会への理解や関心を深めていただく取り組みとして「議場コンサート」を開催しています。どなたでも気軽に傍聴できる環境を整え、令和4年の試行実施からこれまでに15回を数えました。

また、議場には「恵庭市議会文化芸術回廊」を併設し、市民の皆様による絵画や写真、書道、パッチワークなどを展示しています。議場見学も随時受け付けていますので、ぜひお気軽に足をお運びください。

市民の皆様の声を聴かせていただくことは、将来のまちづくりを考える上での大きな財産です。議場という場所を身近に感じていただくことが、市政への関心を高めるきっかけになればと願っています。

市議会を傍聴してみませんか。

本会議、委員会はどなたでも傍聴できます。

議場には57人分の一般席と3人分の車椅子席が設けられており、昇降機が設置されているので車椅子のまま傍聴席へ移動できます。



ハラスメント根絶に向けた実践的研修を実施



恵庭市議会では、議員間あるいは議員と職員間でのハラスメントの抑止・根絶を目的に、令和5年9月に恵庭市議会ハラスメント根絶特別委員会を設置しました。以来、ハラスメントに関する動画視聴や外部講師を招いた研修、議員同士のワークショップなどを実施し、ハラスメントに関する知識を学ぶとともに啓発に取り組んできました。

今回の研修では、議員自らが演者となり、他の議員の質問に対する威圧的な妨害行為、窓口での長時間職員拘束や良い答弁の強要、育児休暇制度利用を希望する職員への阻害言動、性自認や性的指向に関する発言など、他自治体で過去に起こったパワハラ、SOGIハラ、マタハラを含む5つの事例を再現しました。それぞれの事例に対し、グループ毎にハラスメントの認知と防止対策、議員と職員の心の距離の測り方、権限の違いなど、様々な角度から考察・討論を行いました。

議員と職員は、一般企業とは異なる特殊な関係性ですが、決して上下関係ではなく、対等な立場であることを深く認識することが重要です。職員の業務範囲を超える要求や不当な圧力をかけないように、今後も心掛けてまいります。

令和7年12月16日
恵庭市議会ハラスメント根絶特別委員会
ハラスメント研修会